

中国のオートキャンプ事情

桜田 智香士

中国では、まだまだオートキャンプというのは一般的ではありません。中流以上の階級層が、漸く自家用車を持ち始めた。というところですし(とはいえ、既に世界第一位の自動車購入市場ですが)、オートキャンプ場というものが、整備されていないので、と思っていました。が、キャンプ自体は若者を中心に、かなり浸透してきていると思います。

中秋節に、黄山に行ってきました。(上海からバスで6~7時間。安徽省。水墨画に出てくるような岩山で、途中までロープウェーで登ることが出来ます。山頂付近にはホテルもあります。)ホテルは、翌朝のご来光を見る人で満室。ピークシーズン価格で、一般の中国人では泊れないレベルです(労働者層では、1か月分の給与)。

然し、ホテル周辺は、臨時テントサイトになっていて、バスケットボールコートに1~2人用のテントがびっしりと張られていました。その数、ざっと50位でしょうか。皆、リュックにテントと寝袋を背負って、歩いて登ってきていました(レンタルもあります)。ただ、テントのみです。食事はホテルの売店でカップ麺等を買ってきて、食べていました。

一方、スポーツ用品店に行くと、入口付近にテント、寝袋、BBQ グッズが広く陣取っており、店サイドの注力度が見てとれます。価格はテントで1~4万円程度でしょうか。BBQ セットは、3000~1.5万円程度。こちらの給与からすると、それなりに良い値段です。まだまだ、上流階級の遊びといった域を出ません。然し、メーカーは見たことも聞いたこともないものばかり。日本やアメリカメーカー等は皆無といってよいでしょう。品質も、日本のスーパーで安売りをしているようなレベルです。

マナーに関しては、まだまだ相当低レベルです。BBQ サイトは極めて限られており、一般の人達は、ちょっと郊外にでた公園で、勝手にBBQ をやっています。ごみはそのまま。場合によっては、直火当たり前。周りの連中に聞くと、「ちょっと遠くまで行けば、空地はいっぱいあるし、どこでもBBQ やれるよ」と言っていました。

さて、肝心のオートキャンプを考えてみると、自家用車の浸透とサイトの普及の問題。そして中国人の食事に対する考え方の変化がキーになると思います。特に、食事に対する思考がキーになると思われます。一般的な中国人は、料理が嫌いです。上海では、一般的に女性は料理をしません。共働きで、祖父母が同居している場合には祖父母が、そうでない場合は、旦那が料理を作ります。金持ちは家政婦さんが対応します。残業で双方遅い場合には、日本で言う中食です。外食も非常に多いです。そのようなカルチャーなので、BBQ サイトでも、「手ぶらで行って、食材もその場にあって、ちょっと炭火で焼いてみる」といったところが一般的です。なので、わざわざ郊外に行って、自ら火をおこし、料理をするというのがはやるかどうかは、??? などところがあります。

ただ、金持ちは腐るほどいます。彼らは、非常に新しい物好きです。ですから、韓国、台湾の様に、上流階級の社交場といった路線が意外と当たり当たりするかもしれません。

これからの中国でのキャンプ動向を、ウォッチしていきたいと思っています。